

質問事項		記述式回答
経済再生と両立する財政健全化		
1	以下の二つの取組について、先進的な取組事例や具体的な取組のご提案がございましたら500字以内でご記入ください。 ①公的サービスの質の向上と歳出効率化に向けた、国民・企業・自治体等の自発的な取組を促すようなインセンティブ改革 ②これまで行政が担ってきた公的分野について民間の多様な主体との連携を促進することにより、その創意工夫と民間資金の活用を図る「公的部門の産業化」	②に掲げる『公的分野について民間の多様な主体との連携を促進』に関連して、PPP/PFIの活用が提案されている。PPP/PFIを活用する際、外国資本も含めた民間資本の参入を促すべきと考える。外国資本を国内民間資本と平等に扱うことで、外国資本の対日投資意欲を削がないようにすべきであろう。もちろん安全保障などの問題も考え合わせる必要があり、例えば1社で保有できる株式の上限を規制するなどが必要かと思うが、開かれた資本市場作りを意識して政策を進めるべきと考える。
2	2020年度の財政健全化目標を堅持することとしておりますが、その道筋についてご意見がございましたら500字以内でご記入ください。	諮問会議の資料には、財政健全化は、①デフレ脱却・経済再生、②歳出改革、③歳入改革、の3つの柱で進めると記載されている。政府には、この3本柱で改革を進めていただきたいと考えている。 とくに②歳出改革を進めるに当たっては、社会保障制度に言及せざるを得ず、政治の介入を招く危険が高い。しかし財政健全化が達成できなければ、将来にわたり社会保障負担が増加する可能性を払しょくできず、国民は防衛的な消費活動に終始すると考えられる。歳出改革に取り組むことは、回り回って経済の活性化にも寄与すると考えている。日本の財政が、今や日本のマクロ経済・金融システムにとって最大のリスク要因であることを、もう一度強調しておきたい。